

# 現地校との合同授業を通しての国際理解教育の実践

## — ドイツにおける Grundschule（基礎学校）との3年間の交流記録 —

前ドイツ・ハンブルグ日本人学校 教諭

山口県岩国市立灘小学校 教諭 錦 生 正 幸

キーワード：現地理解，合同授業，ドイツ，Grundschule（基礎学校）

### 1. はじめに

ドイツ連邦共和国（ドイツ）は、ヨーロッパ中部にある連邦制の共和国である。首都はベルリン、周囲を9ヶ国と国境を接し、北海およびバルト海に面している。人口約8200万人、面積約35万km<sup>2</sup>（日本のほぼ95%の広さ）、気候は冬の寒さが厳しく、夏は涼しい。1990年のドイツ再統一によって現在の16州となる。

ハンブルクはベルリンと同様に行政上、単独で連邦州を構成している。また、ハンブルクは自由ハンザ都市ハンブルク（Freie und Hansestadt Hamburg）と呼ばれ、アルスター河畔の港湾都市として栄え、ドイツ北部における経済、文化の中心地である。

ハンブルグ日本人学校は在外教育施設として25年以上の歴史を持ち、シュレスビヒ・ホルシュタイン州・ハルステンベックの町にある。ドイツの関係法規に従い、日本の教育関係法令に準拠し、州学校局によって認可された現地の義務教育の代行を認められた私立学校である。幼・小・中学部を設け、およそ100名余りの幼児、児童生徒が学んでいる。尚、ドイツでは各州により教育制度が確立しており本実践記録は、私が体験したことであり、ドイツの教育制度は州により差異があることを確認しておく。

### 2. Grundschule（基礎学校）との3年間の交流記録

#### (1) 1回目の合同授業 Grundschule Nord（北基礎学校）訪問〔在籍1年目2005年度の実践〕

\*日時…2005年12月2日

\*対象…ハンブルグ日本人学校3年生およびGrundschule Nord 3年生

\*実施内容…授業参観「算数科」・交流

ハンブルグ日本人学校があるHalstenbek（ハルステンベック）の町には、Grundschule NordとGrundschule Süden（南基礎学校）がある。このうちGrundschule Nord（1年～4年 合計8クラス 約160名の児童在籍）は町の中心部にあり、ハンブルグ日本人学校から徒歩20分の所に位置する。また、私の自宅からGrundschule Nordは徒歩3分のところにあり、合同授業を進めていく上で絶好の立地条件が備わっていた。

3年生の児童は、前学期に「ハルステンベックの町探検」の学習をした。その折に、Grundschule Nordに関心を持ったある児童が校地に立ち入ろうとした。その児童は、自分が所属する現地のサッカーチームの友達を校庭で見つけたので、話をしようと思い、立ち入ろうとしたのだ。また、他の児童からもGrundschule Nordを訪問したいとの希望が多く寄せられた。

まだ、ドイツに住み始めて日も浅く、ドイツ語はおろか、自分自身の生活自体も思うに任せない中で、Grundschule Nordの先生方との人間関係を深めたり、具体的な訪問の日程を決めたりするのに思いのほか時間と労力を費やし、夏休みから教材研究と交渉を始めたが、12月ようやく1回目の合同授業が実現することとなった。

1回目の合同授業は、日本人学校の総務担当職員からのアドバイスもあり、自分の経験に即して、できる範囲で無理の無い実践を進めることを旨とし、Grundschule Nordの3年生児童と一緒に授業に参加し学校見学をすることを主眼に置いた。Grundschule Nordの先生方の主導のもと、算数科「大きな数」の学習をゲームを通して行った。ゲー

ムは2人で行い、算数サイコロの出た目を一・十・百・千の位に当てはめ、相手より大きな数を作ることを目的とし、1000までの数の仕組みについて学習する授業であった。この授業を組むに当たり、日本の教育課程とドイツの教育課程を比較し、お互いの共通課題、既習事項を見出しながら単元構成をした。そして、お互いの学校紹介や簡単なリクリエーションをして交流を深めた。また、今後も同様な活動を進めていくことで、意見が一致した。

以下は1回目の合同授業で見聞した Grundschule Nord の特筆すべき点である。

- ①始業は8:30、補習が必要な児童は7:30から補習開始。
- ②終業は12:30、10:00すぎに20分の中休みを取る。  
(中休みに第2朝食・「軽食」を摂る)
- ③1学年は能力別で2クラスの編成とし、実技・技能教科は2クラス合同で授業をする。
- ④担任は1年(入学)から4年(終了)まで持ち上がり。
- ⑤ドイツ国籍の児童がほとんどだが日本国籍も含め14カ国の国籍の児童が在籍。
- ⑥校風に合わない児童は校長が退学を命ずることができる。
- ⑦教員も保護者からの要望で、退職させられる場合もある。
- ⑧教員の転勤は無く、校長は教員間の互選で任期10年。
- ⑨教員は終業後学校を離れて研修(図書館・大学等で教材研究)をしてよい。副教材は自作が多い。
- ⑩終業後多くの児童は社会教育(スポーツ・芸術活動等)に参加する。



〔3年生算数科「大きな数」の合同授業〕

## (2) 2回目の合同授業 Grundschule Nord 来校〔在籍2年目2006年度の実践〕

\*日時…2007年3月2日

\*対象…ハンブルグ日本人学校1・2年生およびGrundschule Nord 2年生

\*実施内容…合同授業「国語科」・「ひな祭り(文化交流)」・「サッカー」

日本人学校の1・2年生は、毎年春に行われる地域のサッカー大会に出場し、Grundschule Nordの児童ともサッカーの試合を楽しむことができた。この体験から、2年生の児童はGrundschule Nordの児童に興味を持ち、生活科の学習を通して、ドイツの子どもたちの生活や学校の様子を学習した。

そこでGrundschule Nordの日程に余裕があり(学年末)ドイツの冬の寒さが和らいでくる3月に2回目の合同授業(2007年3月2日)を実施した。今回はGrundschule Nordの2年生に日本人学校に来校してもらい、「国語科」(主語と述語・動物の鳴き声・絵合わせゲーム)の学習と「ひな祭り(文化交流)」・「サッカー」の活動を組んだ。

2年生の国語科で学習する主語と述語の関係を動物の鳴き声を使って、それぞれの国の言葉で説明し、日本語もドイツ語も主語・述語が大切であることに着目する学習を、カードゲーム(神経衰弱)を通して行った。今回は実際に私の考案したゲームを使って、Grundschule Nordの先生方と模擬授業をしていく中で、ドイツの児童と日本の児童に適した、教材(カード)を作ることができた。また、Grundschule Nordに障害を持つ児童がおり、Grundschule Nordの支援選任教員とも打ち合わせを重ねることができた。

今回は、私自身Grundschule Nordの先生方と親しくなったこともあり、情報交換や教材作成を昨年度よりは障害なく進めることができた。また、Grundschule Nordには無い、芝生に覆われた広いグラウンドや体育館は彼らにとって魅力的であったことも事実である。



〔国語科〕（主語と述語）

- じゃんけんで最初の親を決める。（親から時計回りの順）
- カードを裏向きに机の上に置く。（親）
- 親からカードを2枚めくる。動物の絵がそろっていたら
- 「ネコ、ニャーニャーニャー」（日本語）
- 「eine Katze, (myaoen, myaoen, myaoen)」（ドイツ語）
- グループ全員でまねをする。
- ◎ネコは「ニャー・ニャー」と鳴く（日本語）
- ◎Eine Katze macht myaoen, myaoen, myaoen (Deutsch)

以下は2回目の合同授業での特筆すべき点である。

- ①支援を要する児童については、親や支援スタッフ（教員）による柔軟な支援策が施されていた。
- ②教員間の人間関係ができていれば、事前の教材研究（模擬授業）や要望、役割分担も明確にできる。（授業の主催者の意思が尊重され、そのために必要な支援を主催者が提示することが肝要。）
- ③Grundschule Nordの皆さんが日本の作法やマナーを尊重してくれた。（礼法等）
- ④交流の輪の広がり（町中で子どもたち同士が出会ったときに声を掛け合うことができた）。

### （3）3回目の合同授業 Grundschule Nord 訪問〔在籍3年目2007年度の実践〕

\*日時…2007年11月13日・22日・30日

\*対象…ハンブルグ日本人学校2年生および Grundschule Nord 1・2年生

\*実施内容…生活科「クリスマスの歌」

ドイツの冬はクリスマスマルクトが印象的である。11月下旬からクリスマスまでの1ヶ月間、それぞれの町の市庁舎前等でクリスマスマルクト（市場）が開かれている。ハルステンベックの町のクリスマスマルクト開催に合わせて、例年日本人学校の1・2年生がドイツのクリスマスの歌や日本のクリスマスの歌を披露する。昨年度の反省から、児童たちにとって、ドイツのクリスマスの文化の学習や歌の披露がうまくできないか思案していた。

そこで、Grundschule Nordのシュルトウ校長先生（Frau Schuldt）にドイツのクリスマスの歌の指導に苦心していることを相談すると、明日、11月12日にGrundschule Nordの4年生を連れて日本人学校に行き2年生に歌を教えよう、ということになった。なんとも急な話ではあったが大変ありがたく、この期を逃してはいけないと思い、ともかくお願いした。幸いにも日程的に問題無かったので、11月13日にGrundschule Nordの4年生との合同授業を組むことができた。



クリスマスの歌の指導

また、11月22日と30日にGrundschule Nordを訪問し、Grundschule Nordの1・2年生と一緒に、音楽の講師からクリスマスの歌の指導を受けることができた。

私は、在籍3年目となり、ハルステンベックの町の雰囲気を楽しみながら日々過ごすことができ、多くのGrundschule Nordの子どもたちとも顔なじみとなり、町中でよく声をかけられる様になっていた。また、日本人学校の2年生にとっては、Grundschule Nordは昨年からの合同授業を通して慣れ親しんでおり、私も2年生の児童も、臆す

ることなく自然に合同授業に取り組んでいたことが思い起こされる。

また、日本人学校の児童が歌うドイツのクリスマスの歌を聞いた街行く人から、「その意味を知っているのか」との質問があった。(当然学習しているが)人々の関心が深く、意義のある歌をご指導下さった、シュルトゥ校長先生(Frau Schuldt)に敬意を表したい。

以下は3回目の合同授業での特筆すべき点である。

- ①地域で教育活動をしていく上で、顔なじみであるとか、旧知の仲であることは大きな財産である。
- ②伝統行事や文化を学ぶことによって、それらの奥にある意味や歴史を知ることが大切である。
- ③児童にとって有益で、可能なことは臨機応変、機動的に対応することが時に重要となる。

#### (4) 4回目の合同授業 Grundschule Nord 来校〔在籍3年目2007年度の実践〕

\*日時…2007年月29日

\*対象…ハンブルグ日本人学校1・2年生および Grundschule Nord 1・2年生

\*実施内容…生活科「おひな様を作ろう」・「ひな祭りの歌」

最後の合同授業として、日本の伝統行事の一つであるひな祭りを題材とし、Grundschule Nordの1・2年生と日本人学校の1・2年生と一緒に、紙コップと折り紙を使っておひな様を作り、ひな祭りにちなんだ歌をともに歌う授業を行った。

市販の紙コップと折り紙(日本製)を使って、おひな様の人形を作った。児童たちは、実演をしながら、ドイツの児童の制作を手伝っていた。日本人的な考え方では、「折り紙の端を心持ち折り返す」という表現は理解できても、ドイツの人々にとっては理解しにくく、「何センチメートル折り返す」というように、より具体的でなければ意思が伝わらないことが印象的であった。また、Grundschule Nordの先生方は、児童の実態に即して、教材の一つ一つを吟味していた。また、指導案の、早くできた児童の活動と支援の方法についても質問があり、真剣に合同授業に取り組んでいることがひしひしと伝わってきた。



紙コップのひな人形

以下は4回目の合同授業で発見した特筆すべき点である。

- ①日本的なあいまいな表現は通用しない。(数値は大切)
- ②人間関係ができていれば、お互い善意で行動できる。
- ③教員の仕事は日本もドイツも同じ(児童に利があるか否かで判断)

### 3. おわりに

ハンブルグ日本人学校では、4年生以上は、以前から定期的な合同学習が実施されている。ただ、1年生から3年生は、定期的な合同学習の機会はありませんでした。その意味では、ある一定の道筋を開拓できた。その要因として、学校同士が地理的に近接しており、私自身、Grundschule Nordの近くに住んでいたことが挙げられる。また、校長・教頭はじめ、関係諸職が合同授業や交流活動について、積極的に働きかけて下さっていたことも大きな要因のひとつである。さらに、総務担当・事務担当の職員の豊かな経験と情報が活動を支えて下さっていたことも忘れてはならない。そして、児童たちの学びたいという意欲が最も大きな原動力であることは言うまでもない。

Grundschule Nordのシュルトゥ校長先生の言葉が今でも心に残っている。

「学校は勉強するところです。遊びに来ているわけではありません。」

「教員として、心がけていることは、一人ひとりの児童の進路を的確に助言することです。教員の仕事は国や地域が違っていても同じです。明日の子どもの未来のために。」